

西川氏らの発言のポイント

西川公也・

自民党環太平洋連携協定(TPP)対策委員長

- (コメ、麦、牛・豚肉などの)586ある重要5品目(の関税撤廃)を本当にすべて勘案しないという姿勢がとり続けられるのか。(重要5品目の中で個別に)関税撤廃できるかどうかを検討する
- 重要5品目の検討は、関税撤廃することが前提ではない
- 過去に国内世論が大きく分断されながらも、農林水産業を守るために対策を打ったが、今回も対策を打つのかどうか検討したい

甘利明TPP担当相

- (重要5品目の関税撤廃可否の検討について)党とよく連携を取りながら、平仄(ひょうそく)を合わせていきたい
- 年内に再度、TPP交渉の閣僚会合を開催することになる。時期は年内妥結に向けた終盤。妥結に向け、日本も引き続き精力的に交渉を進めていきたい

「聖域」撤廃検討

交渉の主導権確保狙う

TPP 国内での批判必至

【又サドゥア(インドネシア)共同】環太平洋連携協定(TPP)交渉で政府・自民党が農業の重要五品目をめぐり関税撤廃の可否検討を表明したのは、「聖域」に自ら切り込む姿勢を示すことで交渉の主導権確保を狙う思惑があるためだ。だが国内では批判の高まりは必至で理解を得られるかどうかは不透明だ。

米が議長役を務めた今回の閣僚会合は関税全廃の原則を再確認した。高い水準の貿易自由化を目指すTPPの原点に立ち返ることで、各国に譲歩を促すのが狙いだ。

ただ交渉は米の筋書き通りには進んでいない。八日の首脳会合で「大筋合意」を打ち出したとしても、多くの分野で積み残しがあるのが実態。首脳会合での政治力の行使による正面突破をもくろんだ米だが、内政事情で主役のオバマ大統領が登場できなくなった。

農業関係者「約束信じる」

自民党が「聖域」として関税の維持を求めてきたコメなど農産物の重要五品目について、品目ごとに関税撤廃できるかどうかを党内で検討するとして西川公也TPP対策委員長の発言に対し、東海地方の農業関係者からは不安の声が上がった。

J A愛知中央会の倉内蔵会長は「政府や与党の方々はいずれも、重要五品目を守る約束をしてきた。今は、その約束を信じて」とした上で「五品目は、現在40%の食料自給率を高めていくためにも、絶対に守らなければならない」と見えていた」と冷静に語る一方、どの品目が関税撤廃の検討対象になるかについて「コメは与える影響が大きいので守られるのでは。豚肉はどうなるか分からない」と不安げに語った。

ただ交渉は米の筋書き通りには進んでいない。八日の首脳会合で「大筋合意」を打ち出したとしても、多くの分野で積み残しがあるのが実態。首脳会合での政治力の行使による正面突破をもくろんだ米だが、内政事情で主役のオバマ大統領が登場できなくなった。

アジア太平洋地域を舞台とした成長戦略を描く日本はTPPの重い課題を背負った。

一方で国内の批判にどう応えていくか